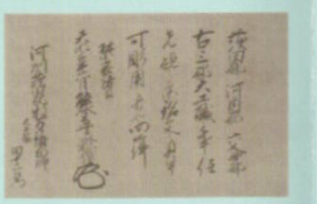
田中家住宅 鋳物工場

●田中家住宅鋳物工場
（大阪府指定有形文化財）
江戸時代の貴重な鋳物工場です。
工場内が高温になるので、細長い建物の土壁に多数の格子窓を規則的に配して、風通しをよくしています。
また、屋根中央には、甑炉の熱気を逃がすために、風袋を設けています。



「大工職許状」（複製）

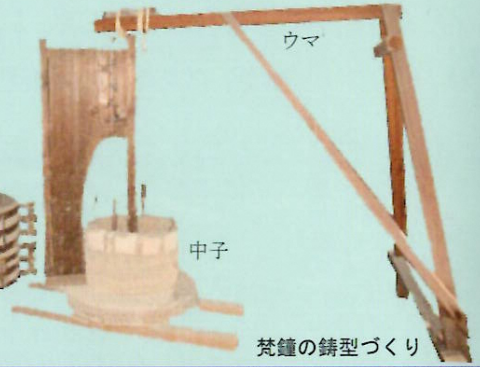
「禁裏御用」の幡（複製）

鍋の挽型

梵鐘撞座の原型

犂サキとその鋳型

外型
（笠型と乳の間）



梵鐘の鋳型づくり

●踏鞴
金属を溶解するには、炉内を高温に保たねばなりません。近代に送風機が発明されるまで、鋳物工場では踏鞴を使って風を送ることで、炉内の温度を上げていました。踏鞴の踏板の両端をシーソーのように交互に踏む単調な重労働を、数時間以上続けていました。

●甑炉（溶解炉）
上下５段に分割され、内面に耐火レンガを張って使用します。下から２段目に巡る廻風管に、動力送風機の風が送り込まれる近代的なタイプのもので、田中家では昭和初期に使用しました。

田中家住宅 主屋

●田中家住宅主屋（大阪府指定有形文化財）
元文４年（1739）に梵鐘を鋳造したときの祈祷札が打たれていたので、そのころに建てられたようです。
伝統ある鋳物師の住宅であるため、建築当初から、防火のために屋根に瓦が葺かれていた点が、周辺の民家と異なる特徴です。

●居室（左）とカマヤ（右）
家の間取りなどは周辺民家とほとんど変わらない「田の字型」となっています。
内部には、むかしの枚方市内で使われていた生活用具などを展示しています。

大昔の住居

●弥生時代の復元住居
田口山遺跡で発掘された弥生時代中期の竪穴住居をモデルに復元しました。

●弥生時代の移設住居跡
長尾西遺跡で発掘された弥生時代後期の実物の住居跡を地面から切り取って移設しました。